

**第 1 回 品川区学事制度審議会  
議事要旨**

日 時：令和 5 年 7 月 18 日（火）10:00～12:00

場 所：品川区役所本庁舎議会棟 6 階第 1 委員会室

出席者：

委員	(出席委員) 名和田委員長、樋口副委員長、金子委員、堀江委員、松澤委員、清水委員、 小宮委員、巻島委員、宮崎委員、堀井委員  (欠席委員) 多田委員
区側 出席者	伊崎教育長、米田教育次長、宮尾庶務課長、森学校施設担当課長、 柏木学務課長、中谷指導課長、丸谷教育総合支援センター長、 唐澤特別支援教育担当課長、升屋統括指導主事、齊藤統括指導主事、 関口学事制度担当主査、三浦学事係主事

1. 開会

2. 教育長挨拶

3. 委員紹介

4. 委員長・副委員長の選出

5. 諮問

6. 議事

(1) 審議の進め方・スケジュールについて

—事務局からの説明

⇒ 委員了承

(2) 品川区の学校教育環境の現況報告

①前回学事制度審議会答申（平成 30 年 3 月）の概要

## ②品川区の教育に係る取組みについて

## ③品川区の就学人口の推移と今後の予測について

－事務局からの説明

## ④意見交換等

(主な意見)

- ・ 子どもたちが増えることが地域にとってよい面もあるが、新しく転入された方がうまくなじめていない方も多いと感じており、様々な難しい課題があると感じている。
- ・ 子どもが多いことで、町会に参加する機会を増加させるなどでの連携がとればよいと感じているが、人口増加は喜ばしいことでありつつも大変な問題であると感じている。
- ・ 単学級が続いてきた学校でも、2クラスになる学年が出てくる状況を見て、人口が増加していることが感じられる。
- ・ 学区単位で子どもを育てる考え方ではこの先行き詰まってしまう。〇〇地区といったより大きな単位で子どもたちをどのように育てていけばよいのかという視点を持つ方が課題解決につながるのではないか。
- ・ 学校現場では、児童数に応じたクラス数に対応した教室があればよいわけではなく、理科室などの特別教室や、算数で少人数授業を実施するための教室などが必要である。
- ・ また、不登校対策とか保護者対応などで教室以外の場所を利用することも多く、少人数の子どもたちに対応するための場所が学校現場では重要であるため、学級数だけでは無くそれ以外の必要なスペースもふくめて、考えていく必要がある。
- ・ 様々な課題はあるが、子どもが増加することは事実であるので、どのように受け入れれば小学校・中学校生活が安全に過ごせるか、という観点でも検討いただきたい。
- ・ 学校というのは、卒業した地元の人にとって特別なふるさとみたいなものであるので、周りに住んでいる人の思いもくみながら、議論を進めることが重要だと思う。
- ・ 最近マンションが増加して、地域の中でのつながりが希薄になってきたと思う。
- ・ 品川区の今回の課題について、30年後の姿をどのように描くかも重要である。一般的には、人口がピークを迎えた後減少に転ずるため、土地や財政力の問題もあって学校を新設するところまでは踏み切れない場合が多い。しかし、品川区は将来的にも極端に減少するわけではなく、世代交代して人口が増加することすら想定される。学校を新設するということを検討の俎上にあげるかも重要な論点である。
- ・ 学校選択制は地域と学校の間を希薄にするように見えるが、地域の力を活用するものであったという指摘があった。さらに品川の学校教育のレベルや学校と地域の協働のあり方のレベルの向上の機会になるのではないかとと思う。

## 7. 連絡事項

## 8. 閉会

以上